

八多小学校だより

平成30年度
1月号
神戸市立八多小学校



初春のお慶びを申し上げます

～新しい年を迎え 未来に向かって～



2019年の年明けは、いかがだったでしょうか。

各ご家庭におかれましては、明るく希望にあふれた新年をお迎えになられたことと思います。また、この冬休みが子供たちにとって、ご家族の方とともに楽しく過ごせたよい時間であったことと思います。子供たちの目標や夢実現のため、私たち教職員も力を合わせがんばりたいと思います。今年も本校教育に、ご理解・ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

3学期が始まりました。そこで、新年を迎えて元気・やる気いっぱいの子供たちに、次の3つのことを学年の締めくくりとして目指してほしいと思っています。

1. 「一年の計は元旦にあり」

新年を迎え、新学期を迎え、子供たちそれぞれ、「今年はこんなことがんばりたい」「こんなことをやってみよう」とめあてを持ったと思います。途中でくじけることなく、チャレンジする子

2. 「学校に来る日は53日」 ※6年生は52日です

3学期は学年の締めくくりの大切な学期です。毎日毎日大切にし、しっかりと勉強や運動にがんばり、今の学年で学んでおくべきことはきちんと身に付けるよう努力を惜しまない子

3. 「人と人の心をつなぐ挨拶」

挨拶は人と人をつなぐ第一歩です。明るい笑顔で、友達にも、先生にも、地域の人にも、もちろん家族にも、相手より先に自分からすすんで挨拶できる子

このような八多小学校の子に成長するよう、そして一人ひとりの笑顔がはじけるような充実した学校生活が送れるよう、私たち職員一同努めていきたいと思っています。学校で学ぶ時間は、子供たちにとってかけがえのないものであり、二度と戻ってこない大切な時間です。その一日の成長がその子の未来の成長・発展につながっていくものと思います。そのためには、子供たちが毎日毎時間の授業での「学び」を大切に、積極的に取り組むことが重要だと思います。子供たちが自信を持って物事を考え、一人ひとりの目標や夢の実現に立ち向かってくれることを願っています。

そのために私たち教職員も、何事にも率先垂範し、子供たちが充実感、満足感を味わうことのできる授業づくり、学級づくり、学校環境づくりに努め、子供たちのまっすぐな成長に心を注ぎ、がんばっていきたいと思います。昨年にも増してのご協力とご支援をよろしくお願い申し上げます。

校長 小原 耕司

「大漁」「すずめのかあさん」「さびしいとき」

金子みすゞさんの詩で私たちの見方や考え方について考える授業をしました。子供たちが気付いたこと、感じたことを紹介します。

「大漁」

朝焼け小焼けだ
大漁だ
大ばいわしの
大漁だ
はまは祭りの
ようだけど
海のなかでは
何万の
いわしのとむらい
するだろう

- わたしたちが幸せになったり、喜んだりする一方、誰かがくやんだり、悲しんだりしているのだと気付いた。
- 食物連鎖で仕方がないことだけど、お祭りに浮かれている人の影に、深い悲しみに沈む魚の群れがいる。「自分の身に置き換えて」考えてみると、悲しくなった。
- 自分のことだけでなく、相手の気持ちを考えられるようになりたい。
- 自分は楽しんでいても、楽しいとは思わない人があるのかもしれない。

「すずめのかあさん」

子どもが 子すずめ つかまえた
その子のかあさん わらってた
すずめのかあさん それ見てた
お屋根で 鳴かずに それ見てた

- 人は笑っているが、すずめの母さんは鳴かず、何もできずに見ているしかなかった。すごくつらかったと思う。
- すずめの母さんは、鳴かなかったけど、本当は飛んでいきたかったと思う。
- つかまえた子のお母さんが、平気で笑っているのは、おかしいと思う。
- だれかをかばってあげられる人になりたいと思った。

「さびしいとき」
わたしがさびしいときに
よその人はしらないの
わたしがさびしいときに
お友だちはわらうの
わたしがさびしいときに
おかあさんがやさしいの
わたしがさびしいときに
ほとけさまはやさしいの

- さびしいときにわらっている人じゃなくて、お母さんみたいなやさしい人がたくさんいた方が心強いと思う。
- さびしいとき、お母さんのようなやさしい人がそばにいてくれたらうれしい。

人の気持ちを考えたり、感じたりできるような人になりたい。

- さびしい時、同じような気持ちをもっている人が近くにいると、私だけじゃないと心強くなる。

子どもたちは、話し合いを通して、金子みすゞさんの詩から多くのことを学ぶことができました。

「さびしいとき」私のそばにどんな人が居てくれると心強いのでしょうか。気持ちに気づかず笑っている友達がいるかもしれません。さびしい気持ちに気づいてくれる、優しくしてくれる、寄り添ってくれる人が一人でもいてほしいと思います。

共に悲しみ、共に悩み、共に立ち上がるそんな人になりたいです。人の心や気持ちは残念ながら目で見ることができません。人の心や気持ちは少しでも見えて、寄り添える人になりたいとみんなで考えた1時間でした。そんな気持ちを心の中にもちながら、卒業までがんばっていきます。

6年担任 志水 美穂